

IoTに必要な構成要素を丸ごと提供 データ活用の迅速化・低コスト化に貢献

IoTがすぐに(Fast)始められる仕組みを提供する——。このようなコンセプトをそのままネーミングに取り入れたのが、エコモットが2014年7月にリリースしたIoTプラットフォーム「FASTIO」(ファスティオ)である。

IoTに必要な構成要素をすべて揃えたパッケージ型ソリューションながら、ユーザ個々のニーズに応じた各要素の組み合わせやカスタマイズも柔軟に行える点が大きな特徴。利用者側はIoTによるデータ活用やサービス開発を迅速に進められ、運用保守の負荷も大幅に軽減できる。

特定業種向けのSI経験生かし 汎用プラットフォームを開発

過去にMCPCアワードのユーザー部門で2度の受賞歴(中小企業賞および特別賞)を持つエコモットは、融雪システム遠隔監視や建設現場情報化支援などIoT/M2M関連のSI事業を展開し、導入現場数で約5000

件の実績を積み上げている。

その経験を生かし、あらゆる産業で手軽に利用できる汎用性の高いIoTプラットフォームを開発した。同社に入澤拓也社長は、「従来、IoTは導入時に過大なコストと手間を要し、規模も比較的大きなものに限られていました。そこで、長年のビジネスで培った要素技術やノウハウを駆使し、規模を問わず誰でも手軽にIoTを導入し恩恵を受けられる仕組みを実現しようと考えたのです」と説明する。

センサーや計測器、自社製を含む通信端末、通信事業者の純正サービスを用いたセキュアなネットワークやクラウド環境、サーバ、豊富なアプリケーションなどはすべて接続・稼働検証を済ませているため、必要なものを選択すれば改めてテストを行うことなく即導入できる。月額利用料も通信費をバンドルしたシンプルで分かりやすい体系となっている。

端末・機器類は屋外の過酷な使用



エコモット 代表取締役 入澤拓也氏

環境や電源問題にも柔軟に対応する堅牢性、信頼性を有していることも、過去の経験を踏まえた大きな特徴。さらに、「収集したデータの演算処理や帳票への出力など導入ユーザの実務に即したカスタマイズ対応や、運用面では24時間365日の保守サポートも行っています」と言う。

1年で48社の導入実績を獲得 土木・防災分野の需要に期待

「FASTIO」の導入実績は2015年9月現在で48社・約4200回線。用途はさまざまだが、太陽光発電の施工会社などが遠隔監視サービスを立ち上げるために用いる例が多いという。

今後は、得意領域である土木建設や防災分野での実績増も目指している。「人命の保護や救助につながるIoTの活用に貢献することが究極の目標」と入澤社長は意気込みを語る。

また、機能面の強化については、多様なセンサーおよびサードパーティ製システムへの対応、外部クラウドサービスとの連携を可能にするAPIの拡充などを進め、より幅広いニーズを取り込んでいく考えだ。

図 IoTプラットフォーム「FASTIO」の概要

